

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 2 年 7 月 13 日現在

機関番号：12501

研究種目：基盤研究(B) (特設分野研究)

研究期間：2016～2019

課題番号：16KT0085

研究課題名(和文) 国際移動の実践科学-ソーシャルキャピタルと移住者の就労、生活、健康

研究課題名(英文) Practical Science of International Mobility: Social Capital and Work, Life, and Health of Migrants

研究代表者

小澤 弘明(OZAWA, Hiroaki)

千葉大学・国際教養学部・教授

研究者番号：20211823

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 13,800,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、移民、難民、人身取引の3つの形態で国際的に移動する人びとに焦点を当て、当事者のソーシャルキャピタル(社会と地域における人びとの信頼関係・結合関係・規範)と、移住者の就労状況、生活状況、健康状態を調査し、両者の相関関係の解明を目的とした。

その結果、多くの調査対象者が地域の日本人との接点や交流がない、情報を得る回路が限定されている、心と身体の双方に不安を抱えている、給与や仕事について満足度が比較的低いことが明らかになった。そこから、特に就労と健康における脆弱性が判明し、就労、教育、生活のそれぞれの場において信頼関係を作り出すような仕組みを構築することが必要だ、という結論を導き出した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は、移住者の客観的状态を明らかにするだけでなく、移住者自身の主観的な満足度を分析することによって、ソーシャルキャピタルの社会統合機能を調査する方法を確立した。また、生活満足度の向上のためには、日本人との関係性の構築・密接化が重要な役割を果たすことが明らかとなった。

本研究の分析を通じて、制度や政策面における改善だけでなく、地域社会の住民間の関係性を改善していくことが必要であることが明らかとなった。特に、留学生を専門学校や大学の中だけで教育するのではなく、地域社会の中で専門性を発揮できる可能性をもった主体として育成していくことが重要であるという論点を示すことができた。

研究成果の概要(英文)：This research focuses on people who move internationally in three forms: immigrants, refugees, and human trafficking. It describes the social capital of the parties (trust relationships, social bond relationships, and norms of people in society and the region). The purpose of this study was to investigate the working conditions, living conditions, and health conditions of migrants and clarify their correlation. We conducted a survey based on a questionnaire created in 15 languages, and many surveyees did not have contact or interaction with the Japanese living in the area. The circuit for obtaining information was limited. There is anxiety both physically and mentally among surveyees, and they are relatively unsatisfied with salary and work.

From that, we concluded that there are always vulnerabilities in working and health and that it was necessary to establish a mechanism to create a trusting relationship in each place of work, education, and life.

研究分野：人文学

キーワード：ソーシャルキャピタル 移民 難民 人身取引 国際移動

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

(1)人の移動に関する学術研究は、「人の移動」現象の変化、政策の変化の批判的分析、移動する人びとのアイデンティティ形成とその変容を記述するもの、支援体制の構築という実践的課題の研究に大別されていた。

(2)これら先行研究では、マクロな制度・政策分析が中心であったが、第3の領域を中心に支援実践の現場というミクロ分析から出発して、制度・政策の改善に至るといった新たな研究方法が求められていた。

2. 研究の目的

(1)本研究では、ソーシャルキャピタルが豊かであるほど、移動する人びとの就労、生活、健康に好影響を及ぼすという仮説のもとに、支援の実践現場に即した分析を行い、実践と政策を繋ぐための学術的な実践研究モデルの構築を目的とした。

(2)また、この研究は、国連や国際機関の指針、国際条約等を参照基準として、日本国内の問題点を指摘する傾向にあった先行研究に対し、ミクロな場の分析を主たる課題としながら、実践と政策を結合した上で政策領域の改善につなげる視点を重視した。

3. 研究の方法

(1)研究体制全体を移民班、人身取引班、難民班の3つに分け、支援実践のフィールドを日本に定めつつ、随時国際比較の視点を交えながら、理論的な検討を行った。方法論としては、インタビューを中心とした質的研究法とビッグデータを扱う量的研究法の相互関係について理解を深めるとともに、国内外の学会に参加し、新たな研究への知見を深めるとともに、資料調査を行った。

(2)ソーシャルキャピタルと就労、生活、健康状態をとらえるアンケート調査票を作成し、調査の内容を倫理審査にかけた上で、複数言語による調査票の作成それ自体を研究実践と研究視点の深化の作業と捉えた。また、支援団体との密接な関係の構築につとめた。

(3)調査対象者の同定を進めつつ、アンケート調査を実施し、その分析と(1)の理論的な検討作業との接合を行い、ありうべき政策提言の方向について検討を行った。このさい、2017年4月に千葉大学に設置され、本研究メンバーが参加するグローバル関係融合研究センターとの全面的な協力を通じて、理論と実践の双方で研究を深化させた。

4. 研究成果

(1)研究の理論的側面としては、米国ワシントンの国際機関・移民難民研究施設の調査、中国・済南大学との研究交流の推進、中国やニュー・ジーランドにおける研究の現状把握、イラクにおけるアンケート調査の実施、ブラジルの中国系移民との比較研究など比較の視座を得た。また、理論的には二つのソーシャルキャピタルの類型である「結束型」と「橋渡し型」の相互関係、日本とヨーロッパ(特にオランダ)の比較を実現した。これは調査報告書の考察編に示されている。

(2)フィールド研究としては、日本語学校に通うインドネシア人学生のインタビュー調査を個別に実施し、本研究の調査票作成の基礎を形成した。

(3)量的分析との関連では、千葉大学予防医学センターで展開されているビッグデータ分析の量的方法論と本研究が主として進める質的分析との相互関係について理論的な分析を深めることができた。

(4)実践との関係では、国連 UNHCR 協会の協力を得た難民映画祭を継続的に実施し、研究成果と教育の結合を行った。また、千葉大学の教養教育である普遍教育において国際コア科目・国際科目として、移民・難民に関する関連科目を開講し、研究成果の教育への応用に力を注いだ。さらに、千葉大学に設置された「大学院総合国際学位プログラム」の中に、本研究グループの教育が多数関わる移民・難民研究の柱が立てられ、本研究の持続的展開の基礎が築かれた。

(5)日本語をベースに 15 言語(アラビア、インドネシア、英、韓国、スペイン、タイ、タガログ、中国、トルコ、ネパール、フランス、ベトナム、ペルシャ、ポルトガル、ミャンマー)に翻訳した調査業を用い、ウェブ調査と質問紙の配布による調査を実施した。そのさい、千葉大学国際教養学部倫理審査委員会の審査を受けた。

(6)この調査は 90 頁に及ぶ調査報告書としてまとめ、千葉大学大学院人文公共学府のウェブページにおいて公開し、社会的に成果を還元した。ここで分析の結果明らかとなったことの概要を、項目ごとに明らかにする。最初は基本属性である。回答者の 56.9%女性で、年齢層としては 20 代が 58.4%で過半数を超えた。在留資格として最多は留学の 50.3%を占め、以下、永住者、日本人の配偶者等の順であった。以下、技術・人文知識・国際業務、家族滞在、高度専門職、研究、教育、技能実習などが続いた。国籍としては、中国が 33.1%を占め、2 位以降は、マレーシア、韓国、インドネシア、スリランカ、ベトナム、日本、バングラデシュ、英国などの順であった。信仰する宗教としては、特定の宗教を信じていない、イスラーム、仏教、キリスト教、ヒンドゥー、道教、神道などが続いた。世俗化の進行と中国の政策的側面の双方が考えられる。

(7)生活面では、日本語の能力について、日常会話をする、電話をする、テレビ・ニュース・ラジオを聞く、新聞を読む、の順に難易度が上がり、「新聞を読む」は、30.4%が「全くできない」と回答した。日本語による文書配布では情報の周知ができない可能性が高い。友人・知人との連絡手段としては、「SNS やスカイプ」が最も多く、情報の周知には SNS の活用が効果的であることが明らかとなった。生活に関わる情報を得たい時に、相談できる窓口もしくは人をたずねたことへの回答は、友人 50.3%、市区町村の担当部署 43.2%、学校関係者 32.3%の順で、相談窓口が広く認知されていること、留学生の割合が高いことにともなう結果であると考えられる。地域に住む同胞への信用度は高く、地域に住む日本人への信用度も 6 割以上が信用していると回答し、否定的な回答は 1 割未満であった。しかしながら地域に住む日本人とのつきあいの程度が高くない層(留学生)が一定数おり、場の形成が課題であることが明らかとなった。

(8)健康面では、回答者の 54.5%が日本で病気にかかったことがあるものの、受診をためらう層がおよそ 5 分の 1 存在し、その回答の理由として、言葉が通じない、治療費の負担が大きい、どこに相談したらいいかわからない、という複数の要因があげられている。また、病気になった時に活用されているソーシャルキャピタルとして、45.9%が友人、29.3%が配偶者と回答していたが、「そのような人はいない」とする回答が 22.3%あり、社会的ネットワークに課題があることが明らかとなった。また、およそ 4 割の回答者が精神的・身体的暴力を受けた経験をもち、日本社会における生活の脆弱性の一端が垣間見られた。

(9)就労面では、まず働く留学生が多いことが確認された。また、55.4%が200万円未満の収入であり、若年層や留学生が多いことから、収入が少ない傾向が出た。また、非常勤・臨時・派遣・パート・アルバイト・在宅仕事・内職などの雇用者が54.3%にのぼり、非正規の労働が一般的であることが示された。

(10)日本での生活満足度については、「日常生活について」の満足度は高く、食生活や教育・学業についての満足度も半数をこえた。他方、「仕事について」や「給料や収入について」の満足度は相対的に低く、「日本人との関係について」で不満を感じる人が多いことも分かった。

(11)以上の調査結果にもとづきながら、回答者の過半を占める留学生とソーシャルキャピタルの関係について介護福祉専門学校を軸にした交流を分析した成果を調査報告書の考察編において展開した。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計12件（うち査読付論文 1件 / うち国際共著 1件 / うちオープンアクセス 5件）

1. 著者名 蘇 鷹 高 威 周 飛帆	4. 巻 4巻
2. 論文標題 藩校における中国書院の受容と変容 『白鹿洞書院揭示』を手がかりに（原文中国語）	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 千葉大学国際教養学研究	6. 最初と最後の頁 67-86
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 小澤弘明	4. 巻 469
2. 論文標題 世界史的立場から考える	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 憲法運動	6. 最初と最後の頁 5-6
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 小澤弘明	4. 巻 704
2. 論文標題 歴史と場 第30回 リンツとたばこ	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 歴史学研究 月報	6. 最初と最後の頁 6-8
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 小澤弘明	4. 巻 976
2. 論文標題 2018年度大会報告によせて	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 歴史学研究 増刊号	6. 最初と最後の頁 1
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小澤弘明	4. 巻 23
2. 論文標題 新自由主義の時間と空間	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 「年報日本現代史」編集委員会編『年報日本現代史』	6. 最初と最後の頁 1-9
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 水島治郎	4. 巻 895
2. 論文標題 「ひとり政党」の一人舞台はならず - 2017年オランダ総選挙とポピュリズム政党	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 世界	6. 最初と最後の頁 203-214
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 水島治郎	4. 巻 324
2. 論文標題 ポピュリズムは「大衆迎合主義」か - 見えてくるメディア側のディレンマ -	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Journalism	6. 最初と最後の頁 12 - 19
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 佐々木綾子	4. 巻 20(8)
2. 論文標題 日本における外国人介護福祉士の就労と生活	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 地域ケアリング	6. 最初と最後の頁 未定
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 鈴木 伸枝	4. 巻 29
2. 論文標題 日米帝国のはざまのパフォーマンス：在日・在沖フィリピン人の文化研究に向けて	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 沖縄芸術の科学	6. 最初と最後の頁 1-21
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 SUZUKI Nobue	4. 巻 5(1)
2. 論文標題 Citizenship Struggles in/and the Family: Neoliberalism and (Im)Migrants in Pacific Asia(招待)	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Migration and Citizenship Newsletter (American Political Science Association)	6. 最初と最後の頁 31-38
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する

1. 著者名 水島治郎	4. 巻 242
2. 論文標題 「ハイブリッド型」としてのアメリカ？ - グローバル・ポピュリズムのなかの現代アメリカ政治	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 生活経済政策	6. 最初と最後の頁 13-17
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 周 飛帆	4. 巻 創刊号
2. 論文標題 社会融入視角下的城市新移民研究	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 国際教養学研究	6. 最初と最後の頁 39-55
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計17件（うち招待講演 3件 / うち国際学会 14件）

1. 発表者名 ITO Takako
2. 発表標題 Relationships of Demographic Factors and Social Capital with Mental Health and Life Satisfaction in Refugees and Internally Displaced People in Iraq
3. 学会等名 The 6th International Nursing Research Conference of The World Academy of Nursing Science (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 IGARASHI Hiroki
2. 発表標題 Transnational Elite Parenting: Affluent Japanese Families Choosing International Education in Tokyo, Hawaii & Southern Johor
3. 学会等名 2019 Regional Workshop of the International Society for the Study of Behavioral Development (ISSBD) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 福田友子
2. 発表標題 南アジア系移民企業家の集積 / 分散とトランス・ローカリティ
3. 学会等名 地域社会学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 福田友子
2. 発表標題 中古車・中古部品貿易業への移民企業家の参入過程と公共政策の変遷
3. 学会等名 日本港湾経済学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 FUKUDA Tomoko
2. 発表標題 Muslim Migrants' Communities in Japan: Focusing on Islam Associations and Cemeteries
3. 学会等名 The East Asian Society for the Scientific Study of Religion (EASSSR) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 FUKUDA Tomoko
2. 発表標題 Public Policies and Ethnic Entrepreneurs Dealing Used Cars and Car Parts from Japan to the Global Market: Focusing on Pakistani and South Asian Transnational Migrants
3. 学会等名 International Colloquium of Gerpisa: "Paradigm Shift?" (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 周飛帆
2. 発表標題 Education of New Chinese Immigrants Families in Japan: the changing role of family in acculturation
3. 学会等名 International Conference for the Study of Chinese Immigration : Local Contexts and Global Perspectives (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 水島治郎
2. 発表標題 統合の「優等生」の変容 - 2017年オランダ総選挙と反EUポピュリズム政党 -
3. 学会等名 日本政治学会研究大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 周 飛帆
2. 発表標題 移民家庭と教育－華人新移民の追跡調査報告
3. 学会等名 2017年世界海外華人研究学会 (issco)長崎大会 (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 SUZUKI Nobue
2. 発表標題 Collide-scape and Kaleidoscope Breakups: Trajectories of Cross-Border Affective Relationships in Japan and Beyond (基調講演)
3. 学会等名 International Conference, Transnational Families and Divorce: Revisiting Marital Break-up in Times of Global (Im)mobilities (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 FUKUDA Tomoko
2. 発表標題 Transnationalism and Pakistani and Afghan Migrant Entrepreneurs dealing Used Cars and Car Parts in Japan and the UAE
3. 学会等名 International Conference, The Global Refugee Crisis: Mobile People under State Protection or Exploitation (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 SAKIYAMA Naoki
2. 発表標題 Encountering the Exiles: Irish-Americans and the Japanese world view in the late 19th century
3. 学会等名 Symposium, Ireland in East Asia: Nationalism, Colonialism, Imperialism (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 SUZUKI Nobue
2. 発表標題 “Empires, Colonial Modernity, and Twilights of Memory in the Trans-Pacific cultural Space: Filipino Musicians in Mainland Japan and Okinawa.”
3. 学会等名 2017 JSA (Japan Studies Association) Conference (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Nobue Suzuki and James Roberson
2. 発表標題 Swinging and Singing: Filipino Jazzmen and Okinawan Female Vocalists in Japan and Okinawa
3. 学会等名 Center for Okinawan Studies Lecture Series, University of Hawai at Manoa, co-sponsored by the Center for Philippine Studies (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 FUKUDA Tomoko
2. 発表標題 Sociological Research on South Asian Migrants and Halal Industries in Japan
3. 学会等名 Halal Marketing and Tourism Research Symposium (HMTRS) 2016 (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 FUKUDA Tomoko
2. 発表標題 Transnationalism and Pakistani and Afghani Migrant Entrepreneurs in Japan and the UAE
3. 学会等名 2016 ISA-RC31 “Migration in Turbulent World” (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 FUKUDA Tomoko
2. 発表標題 Muslim Societies in Japan: Migrants, Refugees, and Ethnic Businesses of Pakistani and Afghani
3. 学会等名 International Metropolis Conference 2016 Aichi-Nagoya, Japan (国際学会)
4. 発表年 2016年

〔図書〕 計22件

1. 著者名 小川 有美 宮本 太郎 水島 治郎 網谷 龍介 杉田 敦	4. 発行年 2019年
2. 出版社 彩流社	5. 総ページ数 232
3. 書名 社会のためのデモクラシー：ヨーロッパの社会民主主義と福祉国家	

1. 著者名 水島治郎 古賀光生 今井貴子 野田昌吾 土倉莞爾 伊藤武 作内由子 田口晃 中山洋平 西山隆行 中北浩爾	4. 発行年 2020年
2. 出版社 岩波書店	5. 総ページ数 334
3. 書名 ポピュリズムという挑戦：岐路に立つ現代デモクラシー	

1. 著者名 松田祥子 田中耕太郎 大森正博編著 水島治郎	4. 発行年 2019年
2. 出版社 旬報社	5. 総ページ数 564(549-562)
3. 書名 新 世界の社会福祉 第二巻 フランス/ドイツ/オランダ	

1. 著者名 永井史男 水島治郎 品田裕編 遠藤晶久 堤 英敬 増山幹高 竹中佳彦 田村哲樹 坂本治也 山崎幹根 岡本次郎 栗栖薫子	4. 発行年 2019年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 384
3. 書名 政治学入門	

1. 著者名 中山洋平 水島治郎	4. 発行年 2020年
2. 出版社 放送大学教育振興会	5. 総ページ数 306
3. 書名 ヨーロッパ政治史	

1. 著者名 ガイタニディス・ヤニス 見城梯治 ビオンティーノ・ユリアン 小林聡子 佐々木綾子 吉野文 西住奏子	4. 発行年 2020年
2. 出版社 明石書店	5. 総ページ数 240 (101-118)
3. 書名 クリティカル日本学：協働学習を通して「日本」のステレオタイプを学びほぐす	

1. 著者名 玉野和志 福田友子 浅川達人 丸山真央 林浩一郎 齊藤麻人 佐藤 裕 上野淳子 山口恵子	4. 発行年 2020年
2. 出版社 世界思想社	5. 総ページ数 236 (192-209)
3. 書名 都市社会学を学ぶ人のために	

1. 著者名 額賀美沙子 芝野淳一 三浦綾希子編 五十嵐洋己	4. 発行年 2019年
2. 出版社 ナカニシヤ出版	5. 総ページ数 264 (149-162)
3. 書名 移民から教育を考える：子どもたちをとりまくグローバル時代の課題	

1. 著者名 小澤弘明 石居人也 大江洋代 長志珠絵 加藤圭木 関原正裕 中澤達哉 原田敬一 平井和子 横山伊徳 割田聖史	4. 発行年 2018年
2. 出版社 岩波書店	5. 総ページ数 250
3. 書名 日本史研究会・歴史科学協議会・歴史学研究会・歴史教育者協議会編『創られた明治、創られる明治－「明治150年」が問いかけるもの』	

1. 著者名 水島治郎	4. 発行年 2019年
2. 出版社 岩波現代文庫	5. 総ページ数 304
3. 書名 反転する福祉国家－オランダモデルの光と陰	

1. 著者名 羽場久美子 若松邦弘 大津留(北川)智恵子 水島治郎 金子勝 河合正弘 朱建榮 望月衣塑子 下斗米伸夫 川上泰徳 遠藤貢	4. 発行年 2019年
2. 出版社 法律文化社	5. 総ページ数 172
3. 書名 21世紀、大転換期の国際社会－いま何が起きているのか？	

1. 著者名 君塚直隆 細田晴子 水島治郎 松尾秀哉 櫻田智恵 原 武史 宇野重規	4. 発行年 2018年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 312
3. 書名 現代世界の陛下たちーデモクラシーと王室・皇室	

1. 著者名 谷口将紀 水島治郎	4. 発行年 2018年
2. 出版社 ポピュリズムの本質	5. 総ページ数 208
3. 書名 中央公論新社	

1. 著者名 水島治郎	4. 発行年 2018年
2. 出版社 先覚出版	5. 総ページ数 272
3. 書名 民粹時代 是邪悪的存在、還是改革的希望？	

1. 著者名 田中ひかる、崎山直樹、竹本真希子、山口守、山本明代、梅森直之、篠田徹	4. 発行年 2018年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 298
3. 書名 社会運動のグローバル・ヒストリーー共鳴する人と思想	

1. 著者名 水島治郎 石戸光、畑佐伸英	4. 発行年 2017年
2. 出版社 三恵社	5. 総ページ数 93
3. 書名 政治経済的地域統合	

1. 著者名 三浦まり(編著)・濱田江里子・金成垣・水島治郎・千田航・大沢真理・駒村康平・井手英策・宮本太郎	4. 発行年 2018年
2. 出版社 岩波書店	5. 総ページ数 298
3. 書名 社会への投資 <個人>を支える <つながり>を築く	

1. 著者名 Asuncion Fresnoza-Flot and Gwenola Ricordeau, eds, Low Choo Chin, Hsiu-Yu (Tori) Fan, Nobue Suzuki, Victoria Reyes, Isabelle Cheng, Hsin-Chieh Chang	4. 発行年 2017年
2. 出版社 Routledge	5. 総ページ数 204
3. 書名 International Marriages and Marital Citizenship: Southeast Asian Women on the Move(査読付編著)	

1. 著者名 浅妻裕・福田友子・外川健一・岡本勝規	4. 発行年 2017年
2. 出版社 成山堂書店	5. 総ページ数 268
3. 書名 自動車リユースとグローバル市場 中古車・中古部品の国際流通	

1. 著者名 Denise Cruz, Karen J. Leong, Tessa Ong Winkelmann, Erika Huckestein and Mark L. Reeves, Ji-Yeon Yuh, Rumi Yasutake, Liza Keanueneokalani Williams, Gladys Nubla, Chrissy Yee Lau, Kimberly McKee, Miliann Kang, Genevieve Clutario, Fang He, Laura C. Nelson, Stella Oh, Nobue Suzuki, Shawn Schwalbe, Craig Santos Perez	4. 発行年 2017年
2. 出版社 Brill (Leiden)	5. 総ページ数 440(343-365)
3. 書名 Gendering the Trans-Pacific World: Diaspora, Empire, and Race Gendering the Trans-Pacific World inauguration volume (vol. 1) ISSN: 9789004336094	

1. 著者名 水島治郎、伊藤武、中北浩爾、古賀光生、中山洋平、作内由子、田口晃、土倉莞爾、今井貴子、野田昌吾	4. 発行年 2016年
2. 出版社 岩波書店	5. 総ページ数 277(v-xiv, 135-159, 273-277)
3. 書名 保守の比較政治学 - 欧州・日本の保守政党とポピュリズム	

1. 著者名 水島治郎	4. 発行年 2016年
2. 出版社 中公新書	5. 総ページ数 256
3. 書名 ポピュリズムとは何か - 民主主義の敵か、改革の希望か	

〔産業財産権〕

〔その他〕

『ソーシャルキャピタルと移住者の就労、生活、健康』調査報告書 https://www.gshpa.chiba-u.jp/research/1.html

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	崎山 直樹 (SAKIYAMA Naoki) (10513088)	千葉大学・国際教養学部・講師 (12501)	
研究分担者	佐々木 綾子 (SASAKI Ayako) (20720030)	千葉大学・国際教養学部・講師 (12501)	
研究分担者	水島 治郎 (MIZUSHIMA Jiro) (30309413)	千葉大学・大学院社会科学研究院・教授 (12501)	
研究分担者	福田 友子 (FUKUDA Tomoko) (40584850)	千葉大学・国際教養学部・准教授 (12501)	
研究分担者	伊藤 尚子 (ITO Takako) (60583383)	山陽学園大学・看護学部・准教授 (35310)	
研究分担者	後藤 弘子 (GOTO Hiroko) (70234995)	千葉大学・大学院社会科学研究院・教授 (12501)	
研究分担者	周 飛帆 (ZHOU Feifan) (80270867)	千葉大学・国際教養学部・准教授 (12501)	
研究分担者	宮國 康弘 (MIYAGUNI Yasuhiro) (90734195)	千葉大学・予防医学センター・特任研究員 (12501)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 分担者	五十嵐 洋己 (IGARASHI Hiroki) (90768300)	千葉大学・国際教養学部・助教 (12501)	
研究 分担者	赤崎 美冬 (AKASAKI Mifuyu) (20830136)	国立研究開発法人国立長寿医療研究センター・老年学・社会 科学研究センター・研究員 (83903)	
研究 協力者	近藤 克則 (KONDO Katsunori)		
研究 協力者	佐々木 由理 (SASAKI Yuri)		
研究 協力者	鈴木 伸枝 (SUZUKI Nobue)		